

総務産業常任委員会記録

日 時 令和6年4月24日（水曜日）13時30分～14時28分

場 所 議員控室

出席者 小寺委員長、工藤副委員長、金木委員、逢坂委員、佐藤委員、村田議長
竹内デジタル推進課長

オブザーバー 阿部議員、磯野議員、平山議員、舟見議員、村上議員

事務局 渡辺局長、嶋元係長

小寺委員長

それでは、時間になりましたので、総務産業常任委員会を行いたいと思います。

本日のテーマというか、議題はデジタル推進課の事業についてということで、4月より新しくデジタル推進課ができて、新たな事業を行うということで、今回具体的な内容が出てきました。そして、今後臨時議会等で補正予算等もありますので、それも踏まえて、委員会ですので、デジタル、なかなか難しい分野だと思いますけれども、本当に分からないことはどんどん質問していただいて、臨時議会の補正予算に向けていってほしいと思います。

それでは、今回新しくデジタル推進課の課長になられました竹内さんからまず自己紹介をお願いします。

竹内デジタル推進課長

全く用意していなかったですけども、4月からデジタル推進課の課長に着任しました竹内です。よろしくお願いします。本当に急に言われて、事前に何か町長に言われていたわけでも何もなく、内示の日に言われて驚いたのですけれども、庁舎内、聞いてみると何か8割ぐらいは僕がなるのではないかって言われていまして、そんなにデジタルに詳しいわけではないのですけれども、勉強して、何とか皆さんにとってよりよいサービスとか提供できるように進めていきたいと思っています。よろしくお願いします。

小寺委員長

はい。では、続けて説明のほうお願いいたします。

1 デジタル推進課の事業について

説明員 デジタル推進課 竹内課長

竹内デジタル推進課長 13:31~13:53

では、デジタル推進課の事業についてということで私から説明させていただきます。

デジタル推進課、実はまだ全然言い慣れていなくて、ところどころ引かかるかもしれません。そこはお許してください。まずは、補正予算の提案前にこのような機会を設けていただきまして、ありがとうございます。本日の議題、事業についてというタイトルではあるのですけれども、事業内容の説明の前にそもそもデジタル推進課は何するのだと、事業するに当たって前提となる目的は何なのかというあたりからちょっと今日はご説明させていただければと考えております。昨年度の委員会で新しい課ができますよというお話がありまして、その場ではデジタル技術を活用した住民サービスだとか職員の業務効率化という2本立てで、詳細については今後検討していきたいというような説明であったかと思えます。4月からデジタル推進課が発足しまして、理事者がこの課をつくった思いを聞いたり、デジタル推進課はどうあるべきかということをちょっと話し合いました、その結果としての議案の1番があります。羽幌町のデジタル推進における4つの方針と掲載しております(1)から(4)を大きな柱として、当面はこの基本的な方針に従って事業を展開していきたいと考えております。

まず、この方針について説明いたします。1点目は、デジタル技術を活用した便利で快適な町民サービスの推進です。これは、後ほど説明を予定しておりますラインを使った双方向のツールの展開であったり、そこにも置いてありますが、デジタルサイネージの設置であったり、現時点ではまだ検討段階なのですけれども、窓口をもっと便利にしたいなという思いがあったり、住民票をコンビニで交付したりと、そういった町民向けのサービスの導入や開発のことを意味しています。ここにつきましては、当面はラインの環境構築を優先しながら内部的に検討して、デジ田も絡んでくる部分でもありますので、どんなサービスができるのかということを内部で調整していけたらと思えます。

(2)、2点目が町民向けデジタルサポート体制の構築です。デジタル技術を使ったサービスが普及することで便利になっていく反面、やっぱりデジタルには全然ついていけないわという方も出てくるのかなと思っています。ここにいる皆さんはそんなことないと思えますけれども、誰一人取り残されない人に優しいデジタル化というような言葉を聞いたことがある方もいるかもしれませんけれども、政府が掲げているのですけれども、この理念について我々としても共感するところでもありますし、デジタル化を進めるに当たって同時にサポート体制も強化するというのは車の両輪のように取り組んでいく必要があると考えています。具体的には、ラインツールに関しては集団説明会を2回ぐらい

やりたいなと思っていますし、それ以外でも町内会だとか老人クラブの集まりのときに呼んでいただいて、スマホ教室みたいなのを開催して説明したりとか、そういうことを想定しています。この説明会をもしやれば、防災 i n f oが入っていない方のインストールの支援とかも併せてやりたい考えです。このほかに例えばそもそもラインのアカウントの作り方分からないとか、町の税金とか水道料がキャッシュレスでコード払いできるって聞いたけれども、やり方が分からないとか、そういう方もいらっしゃって、直接役場に来られた場合にもサポートしたりできればいいなと思っています。思っているのですけれども、正直なところこれがどれぐらいの仕事量になるのかまだ想定ができていませんで、今のデジタル推進課は2人体制なので、それでは賅え切れない部分も出てくるのかなと思っていますので、DX推進員として地域おこし協力隊採用を今ちょっと募集かけているところですので、協力隊に担ってもらいたいなと思っています。

次、3点目に行政の効率化です。行政の効率化というと、いろいろ目的はあるのですけれども、我々としては一人一人の仕事の量が減るような省力化につながるものを最優先して重点的に取り組んでいきたいと考えています。なぜかといいますと、今ほとんどの課で昔より少ない人数で仕事を回していますし、しかも全国どこでも今は人を採用すること自体が物すごく難しくなっている状況です。先週金曜の道新の道北版の記事御覧になった方もいると思いますけれども、稚内市役所とか猿払とか若い職員がどんどん辞めていくという内容でした。羽幌町役場も実はここ数年優秀な若い職員が退職する事例が増えておりまして、皆さんもご存じのとおり、退職して議員さんになった優秀な職員もいます。道新の記事でも最後にデジタル技術の活用による業務の効率化も重要になると締めくくられていましたけれども、まさにそのとおりだと思いますし、さらに言えば若い世代とかスマホとかでいろんなこと済ませてしまうような世代ですから、役場に入って手書きの書類書いたりとか判こ押したりというのは、やっぱりちょっとギャップを感じているのではないかなと思います。例えは悪いですが、役場に入ったら和式の便座しかなかったと、そのぐらいのギャップを感じているのではないかなと我々思っています、そこはちょっとギャップを埋めてあげたいなと思っています。効率化をどんどん進めることで職員に余裕ができるようになって、そこでようやく本来の業務である町民の皆さんに対する仕事がしっかりできるようになると思いますし、そこはちょっとてこ入れしていきたいと考えております。具体例なのですけれども、デジタル推進課、予算が今のところなくて、予算がないなりに4月中にいろんなことをやりました。まず、町長のスケジュール管理というのを手書きで書いてそれを転記してやっていたのですけれども、それを全部直接スマホとかPCに入力して、クラウドで確認できるようにしたり、公用車の管理も手書きでやっていたのですけれども、5月から車内に貼り付

けたQRコードを読み取って、それをスマートフォンで入力して、台帳も自動的に出来上がる、そういうのをやっています。あと、行政版のチャットGPTを導入したり、あと今日もやっていますが、会議を録音して、AIを使った読み起こし、文字起こしをしています。あと、自宅のパソコンから職場のパソコンを操作するテレワーク環境というのを試験導入しました。今後出勤簿、休暇、時間外といったアナログでやっている作業を一元化する勤怠のツールであったり、大量の紙を電子的に確認するための電子管理ツールだとか電子決裁の導入も検討しています。

(4)、職員の育成と意識改革ということで、先ほどの町民向けのサポート体制と同じような話になってしまうのですが、デジタル化を進めながらそれについていけるよう職員を育成していく必要がありますし、何よりはまず職員の意識改革が絶対に必要だと考えています。職員一人一人が効率悪い仕事をなくすのだと、今までと同じやり方では駄目なのだという意識を持って、行政の中身から変えていくと、そういう集団になっていけるような方向づけを旗振り役として先頭に立ってやっていきたいという思いを持っております。この具体例としては、eラーニングだとかユーチューブなどを活用して研修を実施したい考えです。

ここまでが項目の1番の4つの方針となります。

続けていいですね。

小寺委員長

はい。

竹内デジタル推進課長

2番のほうなのですけれども、業務の移管ということで、ちょっと細かい事務分掌の話を見せていただくのですけれども、具体的な業務としてデジタル田園都市国家構想交付金に係る事務とまち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事務を地域振興課より引き継いでおります。なお、まち・ひと・しごと創生総合戦略なのですけれども、国の総合戦略のほうも変わりました、デジタル田園都市国家構想の実現に向けた総合戦略というデジタル田園都市国家構想のほうも変わりました。羽幌町としても今年度中に第3期の総合戦略を策定するのですけれども、デジタル田園都市国家構想の内容で改定したい考えです。

ようやく次の3番に移りまして、本題の補正予算の概要についてちょっと説明させていただきます。まず、一番大きな部分である(1)のライン公式アカウントを使ったパブリックコミュニティ構築ツールからご説明します。こちらは、国の令和5年度補正予算のデジタル田園都市国家構想交付金として採択されています。資料の後ろのほう、カラーのものがつい

ていると思うのですけれども、これは全てラインの公式アカウントの資料になります。ラインについては改めてご説明するまでもないと思うのですけれども、国内であらゆる世代に最も利用されているコミュニケーションツールです。シニア世代も満遍なく普及しておりまして、議員の皆さんの同世代の方なんかにも全然利用されている方がいるのかなと思っております。そちらのカラーの資料にも年齢分布なんかとか、そういう円グラフになっております。この皆さんが慣れ親しんでいるラインを使って行政サービスをいろいろ展開しようというのが、今回導入を予定しているライン公式アカウントを使ったパブリックコミュニティー構築ツールとなります。ほかの自治体では、手のひら市役所とか持ち運べる市役所とか、そういう言い方をしているところもあります。実際正直なことを言うと、僕自身も4月にこの仕事を引き継いで資料を初めて見たとき仕組みがちょっと全然理解できなくて、それは皆さんも今日初めて聞きますので、ぴんどこない部分あるかと思っておりますので、一通り説明とデモはしますけれども、ご不明な点ありましたら遠慮なく質疑いただければと思います。

まず、ベースとして、ライン公式アカウントというものがあまして、これお店だとか企業であれば実は誰でもつくることができます。羽幌でも飲食店などで登録されているお店があります。公式という名前のおり、登録してから本人確認があまして、羽幌町役場以外の誰かが羽幌町役場の名前の公式アカウントを取ることはできない、そういう仕組みになっています。ただ、この公式アカウント自体は例えば美容室だとか居酒屋とか、そういうところが基本的に使うのが便利なアカウントなものですから、お友達になってくれた方にクーポン配ったりとか予約を受けたりとか、そういった機能がメインになっていまして、今までも自治体で公式アカウントをつくっているところあったのですけれども、基本機能だけだと一方的に通知するだけという使い方がメインになってしまって、なかなか有効的に活用されないという状況がありました。今回予算要求しているツールなのですけれども、いろんな会社から出ているのですが、公式アカウントの機能を活用しながら外部のサービスとうまく連携して、あたかもラインの中でラインのサービスが展開しているような見せ方をしながらチャットボットで手続の問合せができたり、フォーム機能を使って粗大ごみとか検診の申込みを受け付けたりといった行政サービスを完結できるというものです。基本的には同じインターネットを使ったホームページと似たような役割ではあるのですけれども、プッシュ通知と違って、こっちからの情報を送ることができるというのがホームページとの大きな違いかなと思います。

この資料の下にセグメント配信って書いているのですけれども、これがどんな機能かという、自分が必要な情報をジャンルごとに選べる機能になります。例えばあしたは何ごみですとか今日は何ごみですみたいな情報を通知してほしいという人はごみだけチ

チェックすればいいですし、ごみのほかにお悔やみとかイベントの情報も知りたいよという人はそれをさらにチェックして、追加ということができます。ライン使われていたら分かると思うのですけれども、何でもかんでも情報がどんどん流れてくると逆にうっとうしくなって、ブロックされてしまったりとかするということがあるので、セグメント配信というのは本人が欲しい情報を選んでもらっていますから、そういうブロックを防ぐことができるものです。ちょっと言いづらいのですけれども、防災 i n f o はぼろ、皆さん登録されていると思いますけれども、あれあんまり関係ない情報が何でもかんでも流れてくるなと思っている方いるのかなと思います。将来的には、防災 i n f o のほうは災害とか防犯とか事故の発生みたいな情報に特化して、それ以外の情報をラインのほうに移行して、すみ分けしていきたいなというふうに考えています。ただ、島に関しては、IPで告知していたものをそのまま今防災 i n f o に載せていますので、ごみからお悔やみから何でも今配信されています。僕も2年間天売で生活していたので、あれはあれで一つの何かインフラになっている部分があるなと感じていますので、島については島民の皆さんの意見を踏まえながら段階踏んでいきたいなと思っています。担当課としては、島は当面今までどおりでいいのかなとは考えております。

この資料の下、次リッチメニューとかあるのですけれども、ホームページでいうトップ画面のようなもので、そっちのカラーの資料でいうと25ページ、ちょっとこういう何か画像でできたボタンというのですか、アイコンというのですけれども、こういう大きいボタンが、押しやすいボタンをメニューとしてつくって、これは標準では用意されていないのでツールを使わせてもらって、現在の考えですが、町民向けとふるさと納税や観光に対応した町外向けに分けてつくる予定です。その下の26、イメージです。市内向けメニュー、市外向けメニュー。

チャットボットというのは、ラインで人間と会話するように質問するとコンピューターが返事をしてくれるというものです。例えば何ごみか教えてというメニューの後に炊飯器って押して送信したら粗大ごみですって返ってきたり、手続を教えてって選んでいたら、最終的に町の手続のホームページが開くような、そんなものです。AIとか使ったものではないので、そんな高機能ではないです。

各種の申込み、45ページのイメージに近いのかなと思います。実際今検診の申込みもスマートフォンとかでできるようになっているのですけれども、一回一回ちょっと業者さんに何かつくってもらっている状況でして、今後はこういうフォームはラインの機能で自前で作れるようになるので、検診に限らず申込みというものがあるものは全部こういうフォームで電子化していきたいと考えています。その他いろいろ機能がありますけれども、説明は省略します。たくさん機能用意されているのですけれども、ある程度

最低限の機能から始めて、対応する担当課の体制なんかもありますので、基本的には小さく始めて、大きく育てる方針でいきたいと考えています。

一応ちょっとデモを今少しやります。もしオブザーバーの方も見えなかったらこちらまで来ていただければ。

小寺委員長

ぜひ見えるところに移動していただいて、椅子持っても大丈夫です。

竹内デジタル推進課長

本当にデモ環境なので、大したことはできません。ここにリッチメニューというのがあって、こういったラインの画面になっています。ここにメインメニューというのが今表示されています。ここに例えば羽幌町公式アカウントみたいな感じで、例えばチャットボットを試すと、こうやるとチャットボットとなり、押していくとどんどんこういったようにお役立ちチャットボット…実演しますと、引っ越しに必要な手続を教えてくださいと。どれですかといったら、これはちょっと違うのですが、町のホームページの手続の画面にリンクするとそこに飛ぶような感じです。全部ラインの中で開いているかのようなものです。あとは、粗大ごみなどもこの地区は30日が空いているねと、30日を選んでチェックをして、家具で何々ですよと、こういう感じで。これは実際には外部のサービスに飛んでいるのですが、あたかもラインの中で展開されているというふうに見えます。一応こういったものでして、ラインについての説明は以上となります。

このほかの補正として、次の(2)でデジタルサイネージの導入ということで、まさにこれです。パソコン用のディスプレイを縦にしてつくったものなのですけれども、今ちょっと窓口において置かせて、試しています。実際置いたらやっぱりいいものだねというふうになりまして、これをちょっと導入していきたいという考えです。一応43インチぐらいのものです。ショッピングセンターとかにある大きいサイズのディスプレイを。窓口というのは、やっぱり町民の皆さんと接点が一番多い部署でもありますので、デジタル技術を使って窓口をどんどんよくしていきたいという思いがありまして、皆さんも書かない窓口とか、そういう言葉も聞いたことあるかと思いますが、それはちょっと今すぐには難しいのですけれども、それらの導入も将来的には視野に入れながら、取りあえずは今すぐできることから導入していきたいなと思っています。将来的な話ですが、窓口に限らず公民館だとか健康センターだとか、そういうところに横展開できるものなので、そういうのも視野に入れております。

(3)がその他で、打合せだとか視察だとかシステムのデモの参加のために予算を組

んでいます。現時点でどこどこ行くというのはまだちょっと決まっていなくて、今将来導入したいシステムをいろいろ評価している段階でありまして、それらを実地の中で視察に行くこともあるかなと思っています。あと、内部的な話なのですが、来月くらいからちょっと各課にヒアリングして、デジタル技術で解決できる課題がないかというのを聞いて回ろうかなと思っています。その中で島の支所も訪問できればと考えておりまして、その分の離島地区の旅費も見ています。また、デジタル推進課、急にできたものですから、実は全ての課に用意されるはずのインターネットに接続するためのパソコンがありません。通常だと課に1台だけ置かれるのですが、ちょっとデジタル推進課という業務の性格上、職員1人1台ということで、2台購入したい予定です。機種を選定なのですが、リモートの実証実験とか電子会議システムとか、そういうのを踏まえるとモバイル性、持ち運び性を重視したノートパソコンにしたいという考えと、あと今後はAIの活用がどんどん広がっていくので、パソコンの中でAIを回せる性能がちょっと高いものというものにしたいと考えています。ちなみに、今パソコンないものだから、自分のアップルのパソコンを持ち込んで使っています。先ほどもちらっと話したAIを使った音声の文字起こしというのはすごく性能が高くて、結構評判がよいのですが、2台のうち1台はそのアプリが動作するアップルのノートパソコンにしたいというふうに考えています。あと、消耗品として支所とテレビ会議するためのカメラとかUSBメモリーとか、あとラインが導入されたときにはちょっとチラシを広報と一緒につけたいので、チラシの印刷費などを計上予定となっております。

今回の補正の概要としては以上なのですが、取りあえず急ぐものだけ要求となっていて、規模は小さいのですが、スピード感を持って、補正で対応できるものはその都度どんどん要求していきたいと、そういうふうに考えております。

私からの説明は以上です。

小寺委員長

ありがとうございました。それでは、質疑のほうに移りたいと思います。分からない点、今後についても含めてありましたら、挙手のほうお願いいたします。

— 主な協議内容等（質疑） — 13:53～14:27

工藤副委員長 取りあえずこの補正予算の概要というのがあるのですが、金額ベースではまだ出てこないですね。総合計幾らぐらいになりますという数字は、ここにはないのですが。

竹内課長 総合計といいますと載ってはいないのですけれども、それぞれちょっとその下にラインだと初期導入費幾らとかデジタルサイネージだったら幾らとかは書かせていただいています、ここに載っていない部分でいくと、旅費だと26万7,000円、インターネット接続用パソコンは30万を2台ぐらいというのと、あと消耗品が10万ぐらいとチラシの印刷費が3,500部で15万4,000円を予定しています。

佐藤委員 今聞いて、大変素晴らしいことだと思うのですが、町民サービスと行政の効率化を同時にやるという形は難しいと思うのですけれども、どちらが先にやるのか、同時進行するとか、そういう考え方というのはどういう考え方で進めようと思っているのですか。

竹内課長 どっちがということではなく、全て同時進行でやれる分は早々に着手していきたいと考えています。

佐藤委員 自分個人としては、今までこういう役場の職員のいろいろな仕事の面での不便さをまず先に最優先して、いわゆるペーパーレスとか、そういう物事のことをやって、職員がある程度覚えてしまえば、デジタル推進課、今2名でやっているという形聞いていますから、そういう中で町民課の人たちも全部覚えてしまえば、そういうつくったことが、一回一回デジタル推進課に行かなくても職員が対応できるような格好ができればある程度、だからできれば職員のほうの仕事のほうを優先してデジタル化なりやったほうがいいのではないかなという気がするのですけれども。

竹内課長 もちろん職員の育成という部分で、先ほどの4つの方針で挙げた部分で重視しているところではあるのですけれども、それを待っていたらちょっと進むものも進んでいきませんし、庁舎内向けの効率化となるとやっぱり予算が発生するものが多々出てくる部分がありますので、そこも含めて補正で対応できるものは当然補正で対応しますし、職員の育成ができなかったからといって、町民向けの便利なサービスができないかというと、それはそうではないというふうに考えていまして、必ずしもサービスの展開と職員の育成というのはイコールではないので、そこ同時に進められる部分考えています。

逢坂委員　　まず、デジタル推進課、できたばかりなので、これから大変かなというのは思いますけれども、まず説明いただいた中で、町民サービスの推進ということでやっていくということなのですが、具体的に窓口を重点的にやるのかなというふうに、ほかの自治体のやつもちょっと拝見してみたら、窓口のこと結構やっていた自治体が多いので、羽幌町もそういう形で進める考えでいるのかどうかまずお聞きします。

竹内課長　　窓口の改革というのは重要な施策として視野には入れておりますが、どこもそうなのですけれども、システム入れたからといってすぐよくなるものではなくて、デジタル庁が今進めているのですけれども、窓口のシステムを入れる前にまずBPRといった窓口の業務改革、まず今の仕事をそのままシステムに入れてもシステムに合わず形になってしまって、よくない、結局仕事が増えるよということがよく起きているらしくて、まず窓口の仕事は今このやり方でいいのかって、もうちょっと改善する余地はないのか、その上で改善するツールとして窓口のシステムを導入すべきだというような考え方で進めているところですので、そういうBPRの部分からまず窓口のほうは着手していきたいなと思っています。

逢坂委員　　関連して質問ですが、取りあえず窓口の組織を、中身をちょっと変えるという部分だと思うのだけれども、先ほど、ちょっと話は飛ぶのですけれども、書かないシステムというか、これどこかで導入しているところも、サイン一個で何でも物、住民票とか戸籍謄本とか取れる、そういうのを将来課長のほうからも考えていくというふうな話もあったので、いずれにしてもそれについてもまた中身の業務を改善しながらこれから数年かけてやっていくのだらうと思うのですけれども、その辺の見通しというのは、今考えている時点、なければいいです。あればそういうサインだけで何でもやれるという時代が来るのかどうかという部分、将来に向けて、ちょっと今の時点で考えられる範囲で結構です。無理だったらいいです。

竹内課長　　独自のものを開発するつもりがまずないのです、我々としては。先ほども言いましたけれども、デジタル庁でも窓口DX SaaS、SaaSというのはSaaSと書くのですけれども、使いたいときにソフトウェア

を使うという利用の仕方、あと窓口を改革して、そういう書かない窓口みたいなサービスをやりたいよというときにSaaSの中からいろんな会社の用意されているシステムを選んで自分たちで導入する、そういうことで一からつくらないで安く導入できるでしょうという進め方をしているようなのです。それも詳しくはちょっとこれから調べていくところなのですが、僕らとしても一からつくるのではなくて、そういう実績のあるものの横展開だとかデジタル庁が進めている方式だとか、そういうのを見ながらやりたいですし、ここに関してはデジ田の交付金、必ず絡んでくるのだろうなという部分ですので、短期的にはちょっと難しいのかなと思います。

逢坂委員 分かりました。それで、デジタル化というと、何か私個人の考えかどうかわからないけれども、要するにこういうペーパーをデジタル化にして、ペーパーレス化、先ほどちょっと佐藤委員も言っていたのですけれども、そういうのをまず先にやるのかなと思ったのですけれども、そういう部分はどういうふうになるのかなというふうに疑問あるのですけれども、そういうペーパーレス化を図るのか、それともそれはそのまま置いておいて、別な部分の、今こういう説明あった部分を進めていくのか、その辺をデジタル推進課としてはどういう考えでいくのかってちょっと教えてほしいと。

竹内課長 ペーパーレスは完全に視野に入っていて、先日も議会さんからデジタル議会というか、その議案を全部ペーパーレスにするという資料も頂きまして、検討しているところです。提供しているメーカーが何社もあるので、いろいろそれ比較検討していますし、あと議会だけではなく、例えば介護保険の認定審査会、あれも1回に100枚ぐらいの紙が大体5人ぐらいの委員さんに配られて、それ終わった後に全部シュレッダーに行ってみたいなやつなのです。昔前、初山別に委員さんがいて、間に合わないときは委員さんのところまでこれ持って行ってとか、なかなかそういう紙の無駄な仕事というのは、これからヒアリングの中でいろいろ出てくるのかなと思っていて、議会からちょっと頂いた資料でもそうですし、電子会議システムをいろいろ見ていく中で、大体最低ライセンスが50人からになるのです。だから、契約すると大体50人分は使える計

算になるものですから、それを議会さんだけで導入するというのはもったいないですし、認定審査会に使われるなら認定審査会にも使いたいし、こういうちょっとした細々とした委員会なり、本当内部の打合せで活用できるのであれば、それはどんどん活用していきたいと考えています。

逢坂委員 一番最初に聞けばよかったですけれども、デジタル推進課ができたことによって、町民に対してこういう恩恵が一番先にデジタル推進課ができたことによって受けれるのだよというようなものは、説明の中で分からない部分もあるのですけれども、その辺は担当課長としてはこの辺は町民には便利になりますよというふうなことが何かあれば、ちょっとお聞きしたいなと思います。

竹内課長 今補正で上げますラインのサービスなんかは、まさに町民にとって利益があるかなと当然考えております。あと、先ほどもちょっと申し上げたのですが、行政の効率化によってそれぞれの職員に余裕ができてきたりとかする中でもっと丁寧なサービスだとか、そういうのも図っていけるのかなと考えています。町民向けのサービスに関しては、今はラインということで前年度からちょっと宿題として引き継いできたものをするのですけれども、今後これに限らずどんどんいろんなものを取り入れていきたいと考えておりますので、その都度ご説明できればなと思います。

金木委員 私も苦手な分野ですけれども、この件でいわゆるデジタル推進、道内でこのまちは進んでいるよとか、どこか先進地、先進市、町ぐらいにどこかあるのですか。

竹内課長 ちょっとこれから調べたいなと思っているのですけれども、書かない窓口でいくと北見市が先進地に、そこが始めたようなものです。北見の業者さんがさっき言った窓口DX SaaSのソフトウェアの提供メーカーにもなっていますし、そこで横展開されているのかなというのはあります。あと、恵庭とか、あと当別町さんなんかも結構デジ田使ってやっていたのかなと思います。デジ田に関して言えば、最近だと紋別でしたっけ、デマンドバスみたいな、やったことがありました。

金木委員 もう一点、これは議員として申し上げるべきかどうかちょっと逡巡しているところなのですが、例えば資料の48ページだとマイナンバーカードを活用したいいわゆるそういうサービスということになるのです、これ住民票の写しだとか印鑑登録証明書。これいわゆるマイナンバーカードを所持していることを前提にした事業ということですよ、それで。もしカード持っていなければこういう活用はできませんよね、恐らく。その辺はどうでしょうか。

竹内課長 おっしゃるとおりで、マイナンバーカードを活用、所持を前提としたサービス展開になると思われませんが、羽幌町ではこの部分のサービスを最初の段階で、導入段階で入れる予定は今のところ考えていません。

村田議長 勉強不足なので。先ほどから出ているデジ田交付金というので、今回補正で上げてくる金額は何百万になる、計算はしていないのですけれども、それほとんどがその交付金を活用した中で取り組んでいけるのか、それとも限られたものなのか。あと、この交付金の事業費に対しての割合だとか戻ってくる部分だとかというのがもし分かっていたら、まず教えてもらいたいのですけれども。

竹内課長 デジタル推進課に関するデジ田の交付金に関しては74万5,000円で内示されておりまして、それはラインの開設費用と運用費用のみに充てられております。このほかに、ちょっと当課の所管ではないのですけれども、学校管理課のほうで電子黒板とかA I テキストみたいな導入で交付申請しておりまして、そちらでも内示を受けているところです。

村田議長 何%なのか。

竹内課長 すみません。2分の1です。

村田議長 事業費の2分の1ということで、それは補助金なのですか。交付金として後でまた……起債ではないから、交付金だから、2分の1は2分の1か。2分の1が補助ということでもいいですか。
続けていいですか。

小寺委員長 はい。

村田議長 そういう補助金なり交付金を使えるといいと思うのですが、今の話聞いているとやっぱり自分も大分頭が回らなくなっていて、ラインはある程度人は利用しているのでしょうかけれども、先ほど課長が言った勉強会だとかという部分、もし年に何回かやれたにしても、ではそれを簡単に使いこなせる人は、住民がどのぐらいいるかといったら3割かなのかなという思いがあるので、取り組みやすい、やっぱりこれは便利だなというものを限定して進めるというのかな、全てをラインの中で一気にやるのではなくて、取り組みやすいところからピックアップして、それで便利なのだわというのが分かったら、その利用を広げていくというやり方がいいのかなと思うのですけれども、そこら辺はどういう考え方でいるのか。

竹内課長 ちょっとお伺いしますが、取り組みやすいというのは、町民向けサービスについての部分ですか。

村田議長 そうです。

竹内課長 例えばどういったものを想定されていたのでしょうか。

村田議長 先ほど言っていたごみが何曜日は何なのですかとか、それから窓口に行かなくても住民票だとか、そういうのは申請……それは今までもできるのか。そういう先ほど説明したラインを活用したパブリックコミュニティーの創出という中の住民向けで一番住民がこれは便利だわって思うようなものというのかな、それは私も何か分からないのだけれども、そういう、一気にばってやってしまうと何か難しくて駄目だわといったら何も手つけなくなってしまいそうな気がするので、そこら辺はどういう考えしているのかなということ。

竹内課長 僕らも一斉にどんとやるつもりは全くなくて、便利だと思えるものから展開したいと思っています。具体的に言うと、先ほども言いましたけれども、島なんかはそうなのですが、前日の夜になったらあしたは生

ごみの収集日ですとかって入ってくるのです。それもできたら、そんな環境に慣れていたものですから、島の勤務終わってこっち戻ってきたらごみの通知がなくて、ちょっと不便だななんて思ってしまったりするよ
うな感じなものですから、そういうのもあったら結構重宝されるのでは
ないかなと思っています。朝、今日は何ごみの日ですと。前の日通知が
欲しくない人は切ればいいですし、前の日通知が欲しい人は入れればい
いですし、ごみはすごく有用かなと思っています。あと、お悔やみがあ
ればお悔やみの通知なんかもやったら多分、お悔やみのためだけに新聞
取っているという人もいるぐらいですから、重宝されるのかなと考えて
いました。

村田議長 今のごみので、具体的な部分でいけば、島は一律だからいいですけれど
も、羽幌町は地区、地区で収集日とか何かが違うので、それは自分が住
所とか何地区というのを登録して受けるということなのですよね、これ。

竹内課長 おっしゃるとおりで、事前にボタンを押す前に地図が出て、何か赤地区
とか青地区とか、そういう感じが出て、自分で覚えてもらって、その後
画面であなたの地区どこですかで青で選んでもらってやるような運用を
想定しています。

村田議長 住民サービスの向上のそういう部分から、今みたいにやりやすい部分か
ら課長答弁のとおり取り組んでいただきたいというのがまず一番にあ
ります。

先ほどペーパーレスの話が出たので、もう一点、自分も窓口来たり、い
ろんなところ行ったときに、先ほどちょっと出ていたのですけれども、
キャッシュレス、お年寄りが使っているかどうかというのは分からない
のですけれども、自分の年代とかある程度の人だと今お財布携帯とか、
お金持たないで、スマホを当てるだけで支払えるような、そういうのが
だんだん主流になってきていて、自分もそれ使うと小銭を持つのが嫌に
なってくるぐらい便利だというのがあるので、そういうところ
もやっぱり窓口とか、そういう料金を徴収しなければならない、現金
を扱わねばならないところはどのような形で取り進める思いがあるのか、
もしあれば。

竹内課長 ちよつと長期的な視野で窓口を便利にしたいという思いの中で、キャッシュレスも当然その中の項目には入ってくるとは思っていますけれども、現時点で具体的に何をどうするという検討はしているところではないのです。というのも、やっぱり今回我々の導入するものって窓口の負担がいろいろ大きくて、町民課の負担というのですか、だからちよつと段階的に現場の声を聞きながら、現場が対応できるものから少しずつ導入して、提案していければなと考えています。

村田議長 あと、本当に窓口というのは特に3月、4月なんかだと非常に混んでいて、自分もここに用事ある窓口行ったら、これはとっても用事足せるような状態ではないなということは頻繁にあつて、それを解消できるような形のものでできれば、それこそ町民サービスとしても時間のロスもないでしょうし、窓口としても限られた人数で対応できるということになれば素晴らしいことなのかなって思うので、そこもやっぱり重点的に取り進めてもらいたい、私としてはそう思います。これは答弁が、要望なので。

もう一点、先ほど地域おこし協力隊の話もあつたのですが、もう公募をかけているのか、それともこれから取り組んでいくのか、そこら辺はちよつと進捗状況は。

竹内課長 前年、いつからかちよつと、すみません、分からないのですが、地域推進課のほうで既に募集はずっとかけているのですが、応募がない状態で、4月に異動してきて、条件を見たのですが、なかなかスーパーエンジニアみたいな要求内容になっていまして、アプリの開発だとか、そういう能力を求めているものですから、ちよつとそこは削除させてもらって、上げ直しをしているところです。一応まずはデジタル推進課ができる前の募集のアイデアだったものですから、デジタル推進課ができてからどういう人がいればいいのだろうねという話の中で、先ほど申し上げた町民のサポートに回れるような人がいいなということで、そういう能力に特化して募集のし直しを行っているところです。

村田議長 今の課長の答弁で分かりました。逆に言うと、去年からずっとある目的が一番あつた中で、それに付随した地域振興課の仕事の範囲なのですか

れども、それプラス、よく言えば1人のままで、要は1名ではなくて、1人では足りないから、もう一人とかという考えは行政側にはないのかな。何でこんな話しするかというと、今の要は地域振興課でしている部分でいくとなかなか来づらいのだ、多分。だから、ずっと応募がない。海鳥センターだったらすぐ来るのだ。今年もおかげさまで来てくれて、そういう来やすいということになると逆に言ったら窓口も、要は考え方分けて、2人にして、今までの従来のお願ひするけれども、逆に言ったらデジタル推進課を中心として、さっき言った目的をずらした部分をきちんとやって募集し直したほうがもしかしたらデジタル推進課のほうの地域おこし協力隊はあるかもしれないし、それは何かちょっと上とも相談して、検討してみたほうが私はいいような気がするのですけれども、そこら辺課長としてどう思いますか。

竹内課長 4月前の要項とは変更して、かなりボリュームを下げているけれども、もっとということですか。

村田議長 いや、ではなくて、きちんと分けたほうがいいのでないかって。

竹内課長 ちょっと休憩で。

小寺委員長 暫時休憩します。

(休憩 14:20～14:23)

小寺委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

竹内課長 今回募集をしているDX推進員については、地域振興課で従来から応募しているシティープロモーションの担当とは別の業務になりまして、DX推進員の条件についてももう少しサポート寄りの簡単な業務として募集をし直ししております。

逢坂委員 1枚目の一番最後に、(3)のその他の中にチラシ印刷ということで町民向けかなという、周知事項かなと思うので、それはいつ頃出す予定でい

るか、取りあえず今現在で町民向けに対してこういうチラシを出したいというような構想とか、そういうのがあればちょっと聞きたいなと思うのですけれども。

竹内課長 一応ラインのサービスのリリースに関しては、9月を今のところめどに予定しているところです。なので、9月の広報の配達に併せて一緒に配ればいいのかというふうに考えているところです。

佐藤委員 今のそういう話聞いていると、町民にいくまでというのは結構な時間なり、また理解してもらうためには、高齢化が進んでいる中でなかなか難しいと思うのですが、自分個人としてはこのデジタル化について今すぐできることであれば、例えば議会についてのこういう全ての、議員のカレンダー的なものでも、いわゆるアプリ取ってあれすれば何日に何々委員会ってこっち側でぽっと入れてしまえば、自分たちがカレンダー見れば全部分かるわけだから、そういうちょっとしたことからでもまずできることというのは、ペーパーレスでもそのとおりだし、まず議員の皆さんのほうもどういふものかもなかなか理解も難しいと思うので、そういうものであれば、カレンダーとかならすぐできるし、できる人なら俺はすぐやってもらったから。そしたら、全部、全ての行事入れてもらって何して、一々いつだっけ、連絡したかとかって、そういうふうになっているので、そういうできることという部分では、まず初めに議員なり職員たちの、俺はそっち側を優先して、そしたらペーパーレスなんかやったら1年で何百万どころの騒ぎでないのだから、そしたら予算なんて1年で何ぼでもこれ、1,000万かけたって何したっていいのだから、こういうデジタル化にしていくのには。だから、そういう覚悟でやれば俺はそれでいいと思うのだ。ぜひともまず議員のそういう、そっち側のほうからでもすぐにでも自分はやってほしいと思います。

竹内課長 カレンダーに関しては、先ほども説明したのですけれども、総務課のほうで町長のスケジュールをおっしゃられたとおりのクラウドに移した電子化を進めておりますし、これから各課回って課題とかデジタルで解決できるもの何かというヒアリングを行う中で、議会事務局さんのお話を伺う中でこういう意見が議員から出ているのだよというようなことであ

れば、それはもちろんこちらでサポートして、そういう環境をつくる手
伝いはしたいなと思っています。

小寺委員長 ほかにございませんか。(なし。の声) ないようですので、今日はこれで
締めたいと思いますが、最初のデジタル化ということで、本当に早くとは
思うのですけれども、やっぱり時間のかかるものもあるとは思いますが。
また、今回のように内容とかデモとか、そういう機会をいただければみ
んなでちょっと体験したりして、議員がまた広めるということも出てく
るのかなということで、一方的ではなくて、議員ができることも協力し
ていながら進めていけたらなというふうに思います。先ほども最初に
言ったとおり、臨時議会でもこの予算と内容で上げるようですので、ま
たそのときにでももし質問があれば質問もいいのかなというふうに思い
ます。これ1回で終わるのではなくて、また2回、3回とできればなと
思いますので、よろしく申し上げます。今日はありがとうございました。